

地域連携だより



職員の笑顔を増やす取り組み ～誕生月別交流会～

真生会は職員の幸福を願い、職員の笑顔を増やす取り組みを行っています。具体的には、休憩スペースの自動販売機無料化、真生会なつめ鍼灸院での無料鍼灸体験、昼食の半額補助、院内の職員専用ジム整備などです。

その一環として令和2年に始まったのが、誕生月別交流会です。

長野県に伊那食品工業という会社

があります。社員の幸福度が高いことで知られる会社です。以前、真生会から管理職の職員を中心とした18人が伊那食品工業を見学し、職員の幸福を高める大切さを教えていただきました。見学参加メンバーで結成した“伊那食クラブ”を中心に、誕生月別交流会を立ち上げました。

誕生月別交流会担当（「伊那食クラブ」メンバー）



中央放射線科
科長

あずま しんいちろう
東 慎一郎



第2診療支援部
部長

なる せ さとし
成瀬 智



真生会デンタルクリニック
副科長

うめはら よしあき
梅原 佳晃



10月生まれの誕生会

漢字の「十」のポーズで記念撮影

開始当初は新型コロナウイルスの影響で人が集まるのが難しい状況でしたが、制限された環境の中、少しでも職員同士が交流できる機会が作れないかと企画を考えていきました。

誕生会当日は感染対策を万全に、自己紹介をした後でギフト券が当たる抽選会、ミニゲームなどを楽しめます。最後に記念撮影をして、地域のお店の美味しい弁当、お菓子などを持ち帰ります。はじめは手探り状態でしたが、回を重ねるにつれ趣向を凝らした企画が生まれました。

（次のページに続く）

参加した職員からは、「病院から祝ってもらえてうれしかった」「参加して楽しかった」「豪華なお弁当が良かった」など、うれしい声を聞きます。



同じ職場でありながら、顔と名前が一致しない職員がいるのは残念です。誕生会で親睦を深め、顔を見たら気軽に挨拶を交わせる関係ができれば、これほどよろこばしいことはありません。

職員の笑顔が増え、風通しのよい職場環境となれば、より質の高い医療、さらには地域の笑顔へつながっていきます。「誕生会に参加してよかった！」と笑顔のあふれる職員が1人でも増えるよう、これからも企画を続けていきたいと思います。

いみず認知症カフェなでしこ、開催 **30** 回！

真生会で認知症カフェが始まったのは、平成28年12月のことです。令和5年4月で開催30回を迎えました。射水市の花、「カワラナデシコ（なでしこ）」から「いみず認知症カフェなでしこ」と名づけられたこのカフェは、射水市の認知症カフェ運営事業の委託を受け、射水市役所の地域福祉課、大門・大島地域包括支援センター、ボランティアの方々とともに開催しています。

当院で運営に携わっているのは認知症ケア会合のメンバーです。認知症ケア会合は、医師、看護師、医療ソーシャルワーカー、地域渉外室スタッフ、フロアマネジャーといった多職種で構成され、患者さん・ご家族の暮らしに寄り添った認知症ケアを目指して地域との連携を大切にしながら活動しています。

認知症ケア会合責任者の^{ふたむらあきひろ}二村明広医師（副院長）に、過去30回の認知症カフェを振り返り、話を聞きました。（次のページに続く）



1周年記念カフェ
(平成29年12月14日)

ー ”学べる” 認知症カフェ

全国各地で認知症に関する取り組みが展開される中、誰もが参加できる楽しい企画の一つに「認知症カフェ」があります。病気の本人とその家族・介護者にとって、もっと知りたい認知症を多く学べる機会です。

国も重要な政策として認知症カフェの開催を推奨しており、各自治体が開催しています。行事の形式や場所には独自性があります。

当院では最近、認知症の学びにつながる企画が増えました。認知症ケアに関する映像を通して、対話を増やしています。認知症を深く学びたい人には満足度が高い企画ではないかと思います。



第 11 回カフェ（平成 30 年 8 月 9 日）

これまでに行っていたみず認知症カフェなでしこの企画



医師のミニレクチャー・グループ対話・シナプソロジー（脳の活性化を促すエクササイズ）
ピアノ演奏・臨床美術体験・笑いヨガ・認知症予防体操・アロマタッチングケア等

ー独りで悩んでいる人が多い

同じ境遇にある人達がお互い交流する時間を持つことで、苦しんでいる人には心の安らぐ場となり、社会的支援を知らなかった人には利用が始まるきっかけとなります。独りで悩んでいる人が本当に多いことを知らされます。

ー参加者の声が活力に

カフェの会場には院内のレストランを利用しています。ランチタイムを過ぎたレストランは静かで、落ち着いて会話を楽しめます。初めてでも和気あいあいと自由に語り合える雰囲気作りを大事にしています。参加者から、

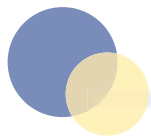
「学んだことを明日から実践したい」「認知症でもいろいろなパターンがあるので今日の集いはとても良かったです」「日頃、介護者が気をつけておられることを話し合うのは今後の参考になると思います」「これからも続けてほしいです」「今日は先生の話が聞けてとてもよかった」「他の人の話を聞いて気持ちが楽になった」「二人だけの生活から少しでも皆との関わりを持てるのが良い」

など多数の感想が寄せられ、私たちの活力となっています。また、30 回以上続けてこられたのは、スタッフの声かけの力も大きいです。開催日が近づくと、一度ご縁のあった方に連絡を取って案内をしています。

今後も広く展開したいと思います。



第 24 回カフェ（令和 3 年 4 月 8 日）



動画教材編集課の紹介

令和4年10月1日に新設されたのが、動画教材編集課です。どのような部署なのでしょう。
動画編集を担当する酒井周建^{さかい しゅうけん}さんに話を聞きました。

Q：部署が新設された経緯をお聞かせください。

私は真生会職員で結成された「劇団 TIPS（チップス）」に所属しています。劇団チップスは、出張講座や健康セミナー等で演劇を通じて皆様の健康を応援する集まりです。

以前から演劇とスライドを組み合わせたパフォーマンスを行っており、劇の小道具やスライドの作成に携わってきました。コロナ渦で活動の機会が激減したこともあり、動画による発信にも取り組み始めました。劇団チップスで経験を積み重ねる中で、「動画の質がよい」と評判をいただくようになりました。また、院内のさまざまな部署から「こんな動画をつくってほしい」という要望があがってきました。

これまでは業務外の時間で行っていたため、新たな依頼を受けるための体制づくりとして、動画教材編集課が新設されたのです。

Q：具体的な仕事内容、作業工程を教えてください。

劇団チップスのメンバーで、まずは何を伝えたいのか話し合います。伝えたい内容が決まったら台本づくりです。台本ができあがったらリハーサルをして撮影します。撮影した動画から、よりふさわしい場面を切り取っていきます。

素材集めにも手間をかけています。イラスト、音楽などはフリー素材サイトからその動画の演出に合う素材を探し出し、そろえていきます。また、音声ソフトやパワーポイントを使用して自作することもあります。

私が初めに編集ソフトを触ったのは、令和3年5月に Web 開催された第64回日本糖尿病学会年次学術集会で「真生会富山病院劇団 TIPS」としての発表がきっかけでした。それまで、パワーポイントを使用して動画作成を試したことがありましたが限界を感じ、動画編集ソフトを導入することにしました。撮影も編集も自己流で、トライ＆エラーを繰り返しながら試行錯誤をしている最中です。



Q：今後、どんなことに挑戦していきたいですか。

動画編集を通じて、各部署の発信のためのコンテンツづくりをお手伝いしていきたいと思います。制作した動画が地域みなさんに発信され、お役に立つことができたなら大変うれしく思います。



真生会公式 YouTube
「真生会 We チャンネル」



左が動画教材編集課の^{まつだ まさき}松田雅樹課長。手前が酒井周建さん。酒井さんは普段は施設管理課のスタッフとして院内の植栽管理に携わる。